



創立70周年「つづく つながる 夢を育てる学び舎」 令和3年(2021年)10月25日

国立二小だより

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

言葉の力

ひとこえ

一声指導とふわふわ言葉



校長 小林 理人

緊急事態宣言の解除からリバウンド防止措置期間を経て、感染者数も減少しました。しかし、ここで気を緩めるのではなく、感染症対策を継続し、これまで十分にできなかった活動も内容や方法を工夫して進めていきたいと思えます。

コロナ禍で控えてきた活動を楽しみにしている子供は多いようです。しかし、人とのかかわりが苦手な子供たちもおり、人間関係上のトラブルも発生します。その問題を早期に発見し、解決に向けて適切な指導を行ったり、問題を予見しそれを予防したりすることが大切になります。そこで、対面の活動が少しずつ出来るようになる11月は、善い行動を促したり良好な人間関係をつくったりするための指導を丁寧に行っていきます。また、これらの指導はご家庭との連携により、効果が上がるとされています。以下のことを参考に、ご家庭でもお声かけいただけるとうれしく思います。

善い行動を促す「^{ひとこえ}一声指導」

学校で一緒に学んだり生活したりしている子供たちの個性や特性は様々です。その全ての子供たちが気持ちよく生活をするためにはきまりやルールが必要です。そのきまりやルールを理解し守ることで、みんなが安心して生活できるようになります。そこで、本校には行動の規範となる「国立二小のきまり」があります。そして、子供たちがそれを理解し守ることができるよう「一声指導」を大切にしています。

「一声指導」とは、子供たちが行動を起こす前に善い行動を促したり、問題行動を防いだりするための声かけ指導です。例えば、ある学級では授業終了時に次の時間に必要な準備を伝えたり、廊下の歩行について確認したりするなどの声かけをしています。そのことが善い行動や、トラブル等の防止につながります。また、その行動が他の児童の模範となったり、成功体験が次の活動への自信や意欲になったりします。私たちは、このような「一声指導」による善い行動や成功体験への連鎖(プラスのサイクル)を意図的・計画的につくりながらきまりやルールの指導を行っています。

良好な人間関係づくりは「ふわふわ言葉」から

本校では、肯定的で温かい言葉を「ふわふわ言葉」と呼んでいます。そして、年間を通してそれを見ついたり、つくったり、積極的に使ったりする取組や指導を行っています。

子供たちが気持ちよく楽しい毎日を送るためには、安心して過ごせる居場所や認め合い助け合うことができる仲間をつくるのが大切です。そして、その基盤になるのが子供同士の良好な人間関係です。私たちは、子供たちが良好な人間関係を築くためにふわふわ言葉を使う指導を行ったり、私たちがふわふわ言葉を使ったりすることを意識しています。

言葉には力があります。否定的な言葉は人の心を傷つけ、行動への意欲を奪います。しかし、肯定的で温かい言葉は心を温め、生きるエネルギーを与えます。言葉が「言霊」と言われる所以です。

10月は子供たちの頑張りや保護者や地域の皆様のご協力により、体育学習発表会を始め様々な場面で子供たちの努力が「結実」し、一人一人の成長を実感することができました。そして、来週からは11月になり全都の学校で取り組む『ふれあい月間』が始まります。本校では「共感」という言葉を意識し、「一声指導」と「ふわふわ言葉」を中心とした指導を行います。ご家庭や地域の皆様の大きな力に支えていただきながら、温かい声かけとふわふわ言葉があふれる『ふれあい月間』にしたいと思えます。